

会員の活動報告

(昭和63年1月～平成元年9月)

伊川 徹

昭和遺政中年使節(昭和62年度文部省派遣報告)(関西大学仏文学会『会報』第4号, 昭和63年3月)

RÉSULTATS D'UNE ENQUÊTE AUPRÈS DES ÉTUDIANTS DE SIX UNIVERSITÉS («RENCONTRES» 2, BULLETIN DES RENCONTRES PÉDAGOGIQUES DU KANSAÏ, 昭和63年10月)

ジャン＝バチストからモリエールへ(『芦屋大学論叢』16号, 昭和63年10月)

六大学の学生に対するアンケート結果——一, 二年生のフランス語で最も困難と思われることは何か——(第二回関西フランス語教育研究会〔於 神戸舞子ヴィラ〕, 口頭発表, 昭和63年3月)

伊藤誠宏

《L'Astrée (第一部)》における単純過去形について — prendre, tenir, vivre — (関西大学『文学論集』第37巻第2号, 昭和63年1月)

後藤尚人

レトリックの変容(『愛知』第4号, 神戸大学哲学懇話会, 昭和63年3月)

語りの文法と力動性 — NARRATIVITÉ をめぐって — (『EBOK』創刊号, 神戸大学仏語仏文学研究会, 昭和63年12月)

読解理論のレトリック(1)(『文化学年報』第8号, 神戸大学大学院文化学研究所, 平成元年3月)

グループム『一般修辞学』; グレマス『構造意味論』; ジュネット『物語のディスクール』; パルト『S/Z』(海外現代批評理論の50冊)(『シコウシテ SHIKOUSHITE』第21号, 白地社〔京都〕, 平成元年9月)

関谷一彦

Diderot のエクリチュール — *Les Bijoux indiscrets* のエロティシズムに注目して — (『仏語・仏文学』第17号, 昭和63年2月)

ディドロにおけるエクリチュールのエロティスム（『フランス語フランス文学研究』No.53〔日本フランス語フランス文学会〕、昭和63年10月）

18世紀における日本とフランス——安藤昌益とドゥニ・ディドロ——（『千里山文学論集』No. 37〔関西大学大学院文学研究科院生協議会〕、昭和63年12月）

安藤昌益とドゥニ・ディドロの寄食者批判（『千里山文学論集』No. 38〔関西大学大学院文学研究科院生協議会〕、平成元年3月）

ディドロにおけるエクリチュールのエロティスム（日本フランス語フランス文学会〔於 共立女子大学〕、口頭発表、昭和63年6月）

武本雅嗣

17世紀のフランス語にみられる関係副詞の *où* と *que* の用法について（『千里山文学論集』第35号、昭和63年8月）

太治和子

18世紀における過去分詞の一致の状況について（関西大学仏文学会、口頭発表、昭和63年12月）

田中寛一

Michel Foucault の年譜関係資料に対するいくつかの疑問点について（『仏語・仏文学』第17号、昭和63年2月）

『ピエール・リヴィエールの犯罪』（『みくわんせい』第4巻第2号〔関西学院大学生協書籍部発行〕、昭和63年7月）

田中 良

ブルースト的階段（関西大学仏文学会、口頭発表、昭和63年12月）

中所聖一

『嘔吐』から『自由への道』への選択——短篇集『壁』について——（関西大学仏文学会、口頭発表、昭和63年12月）

内藤義博

ルソーと隠された〈手〉——『新エロイズ』を中心として——（『りべるたす』2号、昭和63年8月）

ルソーと隠された〈手〉その2 —『エミール』を中心として— (『りべるたす』3号, 平成元年9月)

林 秀治

『セラフィタ』における自然について (『千里山文学論集』第35号, 昭和63年8月)

『あら皮』について (『千里山文学論集』第38号, 平成元年3月)

『あら皮』について (関西大学仏文学会, 口頭発表, 昭和63年12月)

平田重和

カミュの『異邦人』解釈(その1) — ムルソーの異邦性 — (関西大学『文学論集』第37巻第4号, 昭和63年3月)

書評: 植松健郎・山村嘉己編『性差と文化』(玄文社) (『関西大学通信』第176号, 昭和63年10月)

書評: J・ヴィエ著, 森本英夫・津川廣行訳『ジイド』(ヨルダン社) (『本のひろば』4, 平成元年4月)

書評: 同上書評の抜粋 (『朝日ジャーナル』, 平成元年2月)

丸瀬康裕

ボードレールにおける高所 (『フランス語フランス文学研究』No. 53, 昭和63年10月)

ボードレールにおける高所 (日本フランス語フランス文学会春季大会, 口頭発表, 昭和63年6月)

ボードレールの散文詩における多重化する《je》— 散文詩「旅へのいざない」を中心に — (関西大学仏文学会, 口頭発表, 昭和63年12月)

ボードレールの散文詩における多重化する《je》— 散文詩「旅へのいざない」を中心に — (日本フランス語フランス文学会春季大会, 口頭発表, 平成元年5月)

山村嘉己

性差と文化(共著) (京都玄文社, 昭和63年4月)

研究余滴 ヴェルレーヌ 8 牢獄での呻吟と悔悟 その二 (関大生協『書評』82, 昭和63年1月)

研究余滴 ヴェルレーヌ 9 「叡智」の世界 (関大生協『書評』83, 昭和63年4月)

研究余滴 ヴェルレーヌ 10 ふたたび愛の狂乱に（関大生協『書評』84, 昭和63年6月）

研究余滴 ヴェルレーヌ 11 「今と昔」—— 夢よ再び（関大生協『書評』86, 平成元年1月）

研究余滴 ヴェルレーヌ 12 どん底の中で愛を（Ⅰ）（関大生協『書評』87, 平成元年4月）

研究余滴 ヴェルレーヌ 13 どん底の中で愛を（Ⅱ）（関大生協『書評』88, 平成元年6月）

研究余滴 ヴェルレーヌ 14 霊も肉も交々に（関大生協『書評』89, 平成元年9月）

世紀末の思想と文学（シンポジウム）（関西大学セミナーハウス, 平成元年6月）

フランス革命と文学（講演, 京都ロイヤルホテル, [フランス革命200年記念委員会], 平成元年7月）

米谷巍洋

不条理の彼方—— ロブ=グリエの場合（その2）——（『近畿大学教養部研究紀要』第21巻第1号, 平成元年7月）

修士論文題目

昭和62年3月

太治 和子 百科全書における文法（統辞の問題をめぐって）

中所 聖一 サルトルの小説

春藤 寛 20世紀フランス語の1側面

武本 雅嗣 17世紀フランス語における関係詞の用法について

「仏語・仏文学」総目次（1～17）

第1号（1960）

- La geste que Turolodus declinet …………… 三木 治（1）
 16世紀フランス語における間接疑問節について …………… 小方 厚彦（22）
 F. Mauriac の危機と Le Nœud de Vipères …………… 前原 昌仁（45）
 ジョルジュ・サンドの François le Champi の
 成立について …………… 山方 達雄（74）

第2号（1961）

- Baragouin …………… 目黒 三郎（1）
 André Gide におけるキリストとマルクス（I）…………… 重本 利一（9）
 モリエールにおける Optatif に関する一考察…………… 大川 克夫（50）

第3号（1965）

- André Gide におけるキリストとマルクス（II）…………… 重本 利一（1）
 モーパッサンの文体に関する一考察 …………… 円尾 健（39）

第4号（1967）

- Rose et Blanche* de J. Sand…………… 山方 達雄（1）
 Tartuffe 解釈について …………… 小川 雅也（73）
 F. Mauriac の初期の作品（*La robe prête*）…………… 前原 昌仁（99）

第5号（1968）

- André Gide の象徴主義批判…………… 重本 利一（1）
 Sur l'emploi des temps du passé chez Molière（II）
 — passé composé — …………… 大川 克夫（26）
 《J'ai eu Mérimée cette nuit...》
 — George Sand et Prosper Mérimée — …………… 山方 達雄（47）
 Baudelaire の青春前期 — 不安と動揺の日々 — …………… 山村 嘉己（72）

第6号（1972）

- Rutebeuf の「大学に関する詩」…………… 三木 治（1）

『嘔吐』: テーマの外側にあるもの

- 《L'esprit de sérieux の拒否》…………… 川神 傳弘 (39)
 ドン・ジュアンの2つの言動にあらわれた
 モリエールの思想…………… 伊川 徹 (59)
 Maupassant と宿命 — 研究ノート —…………… 野浪 嗣生 (67)
 《Jean-Christophe》の中の三人物…………… 森 孝子 (77)

第7号 (1974)

- Alceste 解釈について…………… 小川 雅也 (1)
 『比較文体論』紹介にあたって
 — 日本のヨーロッパ研究 —…………… 円尾 健 (21)
 サルトルにおける《糞便論的記述》
 — その(1) — (試論)…………… 川神 傳弘 (45)
 17世紀フランス語における過去分詞の一致について
 — Sorel, Scarron を通して —…………… 近江 康則 (69)
 Maupassant の初期の短編小説…………… 野浪 嗣生 (95)

第8号 (1975) 三木治教授追悼号

追悼号刊行にあたって

三木治教授略歴・著作目録

- 三木君の聖なる靈へおくる…………… 浅見 篤 (1)
 三木治先生のこと…………… 佐野 一男 (2)
 三木先生のこと…………… 高塚洋太郎 (4)
 「キュウコウ」…………… 前原 昌仁 (5)
 その頃のこと…………… 福本 雅一 (7)
 三木先生を偲んで…………… 山方 達雄 (9)
 三木先生と私…………… 古川 隆三 (11)
 「五蘊皆空というものの」…………… 大鳥 学 (13)
 三木先生の思い出…………… 青木 繁 (15)
 三木先生を偲ぶ…………… 広野千賀子 (17)
 三木先生の思い出…………… 米谷 巍洋 (19)
 三木先生を偲ぶ…………… 浅野 忠孝 (21)

- 三木先生を偲んで 水島 尚子 (23)
- 鏡の比喩とフランス詩人 — セーヴとマラルメ — 加藤 美雄 (25)
- Villers-Cotterets の法令 (1539) について
 — 特に “*langaige maternel françois*” の
 解釈をめぐって — 小方 厚彦 (41)
- 自然神への賛歌
 — A. Gide の二つの *Nourritures* — 重本 利一 (53)
- ランボアの《*Voyelles*》をめぐって
 — 1871年のランボア (その二) —
 山村 嘉己 (71)
- 比較文体論紹介にあたって (続) — 日本の外国語 — 円尾 健 (91)
- Molière の〈不透明なことば〉 小川 雅也 (117)
- 「不条理」の自由
 — 生への試論 — (Albert Camus の場合) 平田 重和 (135)
- D'Urfé の《*Les Epistres morales*》における
 補足節中の叙法使用について 伊藤 誠宏 (153)
- Erec et Enide* における否定表現について
 — Marie de FRANCE との比較 — 本田 忠雄 (173)

第9号 (1978) 佐野一男教授退職記念号

佐野一男教授略歴

- 仏文科創設の頃のことなど 佐野 一男 (1)
- アナトールの「墓」としてのマラルメ 晩年の三部作 加藤 美雄 (3)
- 『放蕩息子の帰宅』について
 — A. Gide の「状況に迫られた」小品 — 重本 利一 (19)
- 「比較文体論」紹介にあたって (完) 円尾 健 (35)
- La Modification* の構造と意味 米谷 魏洋 (49)
- 自由への《*Les chemins*》 川神 傳弘 (63)
- ロートレアモンと「マルドロールの歌」 荒井 一雄 (77)
- Proust の「偶然性」
 — *A la recherche du temps perdu* の一断面 — 田中 良 (91)
- 現代フランス語の語順 — 特に疑問文について — 辻野知恵子 (105)

第10号 (1980)

ボードレールとパリ

- 「都市と文学」— (講義ノートより) …………… 山村 嘉己 (1)
- ブルーストにおける「障害」 …………… 田中 良 (15)
- La maison de rendez-vous* について …………… 奥 純 (31)
- 《*Ce livre déjà vieux*》— Michel Foucault の
Histoire de la folie について — …………… 田中 寛一 (49)
- アルベール・カミュにおける「幸福」の回帰的変遷 …………… 下條 和枝 (67)
- Les Justes* について
— 愛と正義の問題を中心として — …………… 神垣 亨介 (87)

第11号 (1981)

- L'Astrée* の版本について …………… 伊藤 誠宏 (1)
- Le voyeur* — 特に、物語の中の空白をめぐる — …………… 奥 純 (21)
- 「殺人」における一考察
— アルベール・カミュの場合 — …………… 下條 和枝 (39)
- アンドレ・ジイドの「現実」
— その小説技法をめぐる — …………… 津川 廣行 (53)
- 《*un jeu peut-être bien solennel*》— Michel Foucault の
L'archéologie du savoir について (序説) — …………… 田中 寛一 (69)
- カミュにおける反抗の独特の論理
— 初期作品を中心にして — …………… 内藤 義博 (81)

第12号 (1982)

- ネルヴァルの誘惑 …………… 加藤 美雄 (1)
- Baudelaire における *spectateur*
— パリ詩篇をめぐる — …………… 丸瀬 康裕 (19)
- Dans le labyrinthe* について — 想像力から現実へ — …… 奥 純 (37)
- ジイドにおける変化と無変化の様相
— その人間的時間をめぐる — …………… 津川 廣行 (49)
- ブルーストと形容詞の列挙 …………… 久野 誠 (65)
- Les temps du passé au XVII^e siècle*
— *le passé simple et le passé composé* …… Shioko NAKAO (81)

第13号 (1983)

- Proust の部屋と階段をめぐる …………… 田中 良 (1)
『追放と王国』試論 …………… 下條 和枝 (17)
『異邦人』—— その曖昧さをめぐって —— …………… 内藤 義博 (33)

第14号 (1984)

- Maupassant の円熟期の短編小説 (Ⅱ) ……………
野浪 嗣生 (1)
《Ne me demandez pas qui je suis》
—— Michel Foucault の *L'archéologie du savoir*
における《je》について —— …………… 田中 寛一 (21)
プルーストと数字の誇張法 …………… 久野 誠 (39)
批評としての小説
—— ビュトールをめぐる作品論 —— …………… 仲井 秀昭 (65)
『地の糧』における列挙の構成
—— 多様性の問題をめぐって —— …………… 津川 廣行 (79)
反転する視線 —— G. バタイユ試論 …………… 和田ゆりえ (93)
La langue des *Fables* de La Fontaine
—— Emprunts à Rabelais …………… Shioko NAKAO (109)

第15号 (1986) 加藤美雄教授退職記念号

加藤美雄教授略年譜・著作目録

- 文学的自伝の試み …………… 加藤 美雄 (1)
《Illuminations》の世界 (その一)
—— その成立について —— …………… 山村 嘉己 (15)
ジャーナリストとしてのカミュ (その3) …………… 平田 重和 (31)
サルトルとbiographie
—— サルトルにおける伝記的アプローチ —— …………… 川神 傳弘 (47)
モーパッサンのノルマンディを舞台とする短編小説 …………… 野浪 嗣生 (67)
「北ホテル」再考 …………… 伊川 徹 (85)
Marcel Proust における有罪性の隠蔽 …………… 田中 良 (99)
《ne me dites pas de rester le même》—— Michel Foucault
における《sujet》の問題について —— …………… 田中 寛一 (113)

- イデアリストとしてのカリギュラ …………… 村尾 和枝 (129)
- 『追放と王国』について
—「不貞の女」と「生い出ずる石」を中心として— … 神垣 享介 (145)
- REPertoire の展望
— 105番目のエッセイ *Répertoire* による — …………… 仲井 秀昭 (161)
- ジイドの『狭き門』にみる「面」と「点」の戯れについて … 津川 廣行 (175)
- 自伝の真実とエクリチュールの虚構
— スタンダールの「父」をめぐる — …………… 柏木 治 (189)
- 逸脱への偏執 —『ドキュマン』時代のバタイユ— …………… 和田ゆりえ (205)
- スタンダールと『アルマンズ』
— キュリアル伯夫人をめぐる — …………… 八幡 眞 (219)
- 物語と欲望 — Flaubert の *Un Cœur simple* …………… 鄭 久信 (235)
- イゾトピーと詩的機能 …………… 後藤 尚人 (253)
- フランス語と日本語の母音についての聴音的研究 …………… 藤沢 寿美 (269)
- ブルーストと文末強調構文 …………… 久野 誠 (283)
- La langue des *Fables de La Fontaine*
— Remarques sur les emplois
de l'article — …………… Shioko NAKAO (293)

第16号 (1987)

- モーパッサンの幻想短編小説 (一) …………… 野浪 嗣生 (1)
- Le Grand Meaulnes* 中の繰り返し …………… 森 孝子 (19)
- アルベール・カミュにおける *Navigation* のイメージについて
— 後期作品を中心として — …………… 神垣 享介 (37)
- D'un nouveau complot contre les industriels* の周辺
— パンフレットから小説へ …………… 柏木 治 (53)
- 『聖ジュリヤン伝』の構成 …………… 鄭 久信 (71)
- Problème de «l'obscénité» à travers
Jacques le fataliste et son maître …………… Kazuhiko SEKITANI (85)

第17号 (1988)

- Michel Foucault の年譜関係資料に対する
いくつかの疑問点について …………… 田中 寛一 (1)

- L. S. Mercier の *Tableau de Paris*
における《néologie》…………… 久野 誠 (19)
- Diderot のエクリチュール
— *Les Bijoux indiscrets* のエロティシズム
に注目して — …………… 関谷 一彦 (33)

後 記

関西大学フランス文学科は本年創設40周年を迎え、4月9日千里山キャンパスで記念祝賀会が開催された。大西昭男学長をはじめ来賓の方々、本学科卒業生、新旧スタッフら関係者160名の参加を得て、盛会のうちに終わった。

フランス文学科は、当初、極くこぢんまりした学科であった。専任の教授は学科の創設に尽力された故三木治先生お一人で、学生も少なく、第1回卒業生は1部のみ7名、第2回が1部8名2部3名、第3回が1部5名2部2名に過ぎなかった。その後、学生の増加と共に、語学・文学の両分野においてスタッフの強化が計られ、また、学会が組織されて毎年定期的に研究発表会が行なわれるようになり、昭和35年に機関誌「仏語・仏文学」が発刊の運びとなった。昭和42年には、多年の懸案であった大学院修士課程が開設され、更に50年に博士課程（中世及近世フランス文学、近代フランス文学、フランス語学の3専修）が認可されるに至った。現在、専任教員13名、在学生は300名に及び、学科創設以来の卒業生は1300名にのぼっている。

もちろん、われわれはただ学科の現状に安んじているわけにはいかない。大学教育の全般的な見直しが求められている今日、40周年という記念すべき年を契機として、学科関係者一同がこれまで以上に努力を傾けて、教育・研究体制の一層の充実発展を目指さなければならない。今後とも会員諸氏のご協力を切に願う次第である。

* * *

本誌前号の刊行後に催された研究発表会は次の通りである。各発表ごとに活発に質疑応答が行なわれ、爽り豊かな会であった。

昭和63年12月3日（於法文学舎第二会議室）

午前の部 10:30～

1. 太治和子 18世紀における過去分詞の一致の状況について
2. 中所聖一 『嘔吐』から『自由の道』への選択

— 短篇集『壁』について —

午後の部 13:00～

3. 林 秀治 『あら皮』について
4. 丸瀬康裕 ボードレールの散文詩における多重化する《je》
5. 田中 良 ブルースト的階段
6. 円尾 健 フランスに関する一、二の考察

平成元年12月2日（於法文学舎第二会議室）

午前の部 10:30～

1. 武本雅嗣 17世紀のフランス語にみられる関係詞の用法について
2. 太治和子 18世紀における冠詞論

午後の部 13:00～

3. 関谷一彦 フランス革命とエロティスム
4. 神垣亨介 『ジョナース』について
— 絵画的側面を通して —
5. 田中寛一 ミッシェル・フーコーの匿名志向について
6. 円尾 健 フランス十七・十八世紀私観
— デカルトをめぐる —

(小方厚彦)

関西大学仏文学会々則

1. 本会は関西大学仏文学会と称し、事務所を関西大学文学部フランス文学科合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語・フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語・仏文学」およびその他の出版物の刊行
 2. 研究会・講演会の開催
 3. その他本会の目的にかなう事業
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部フランス文学科専任教員
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻学生、およびその卒業生
 3. 関西大学文学部フランス文学科学生、およびその卒業生
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語・仏文学」等の配布をうけ、その他本会のおこなう事業に参加することができる。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

仏 語 ・ 仏 学 文 学

第18号

1989年12月20日発行

編集・発行

関西大学仏文学会

吹田市山手町

関西大学

フランス文学研究室

印刷所

アテネ出版印刷株式会社

大阪市東住吉区桑津3-13-18

電話 06-713-0471番<代>

(非売品)